

## 在宅医療

朝いちの富士の青さに元気をもらえる季節になりました。まだまだコロナは収束しておらず、またオミクロン対応株ワクチンの接種計画が進む中、忙しい日々が続いています。

先日在宅で治療していた患者さんが亡くなりました。3か月前にある病院から紹介された肺疾患の患者さんで、酸素発生機を2台使用し、常時6リッター/分で酸素マスクをしていたハイリスクの患者さんでした。そもそも病院から在宅のお願いがあった時点で、当院で管理できるかどうか迷いましたが、家族と本人の「家で最期を」という強い希望になんとか応えようと引き受けたケースでした。ここまでで大部分の先生方は自分には無理と、手を出すことをためらうと思いますが、実際の話、今、訪問看護を利用することで医師の負担は驚くほど軽いと断言できます。家族の希望に寄り添い、最期までやりきったという気持ちを家族と共に共有できる在宅医療は、一般診療とは別の次元の究極の達成感を得ることが可能です。一言引き受けると決断すれば後は何とかかなります。無理なくできる在宅医療をやってみてください。

